

講演

## 日本 AI 音楽学会設立報告

松尾 祐孝

Masataka MATSUO

日本 AI 音楽学会会長

洗足学園音楽大学

### 概要

昨今の社会情勢の中で急速にニュースや話題に上がっている言葉に、AI（人工知能）がある。AIの浸透によって、近未来の社会では、職種の変容や企業業態の変化を余儀なくされるなど、大きなパラダイムシフトが訪れようとしている。また、将棋や囲碁の世界では既に電王戦等でAIとプロの対決も一般化している。音楽においても、コンピューター・プログラミング系の学科やコースを持つ大学等でAIによる自動作曲システムの開発が、音楽関連企業ではAIを活用した自動演奏システムの開発が行われ始めている。このような社会の潮流に音楽大学としてもいち早くコミットして社会に広く本学の高い志をアピールすべく、本学が主体となって“日本AI音楽学会”の設立を目指すことにした。

### 1. 準備活動概要

- 2017年1月 学園本部 理事長より AI に関するリサーチの指示を受ける
- 2017年4月 学園本部 理事長より AI に関する学会設立に関する指示を受ける
- 2017年6月 日本 AI 音楽学会設立準備委員会を発足 (6/15 = 初回委員会)
- 2017年7月 7/13 IR 委員会で設立趣旨説明と会則原案を検討承認
- 2017年9月 9/7 教授会で設立趣旨と会則原案を承認
- 2017年10月 facebook と twitter のアカウントを開設チラシ作成
- 2017年11月 11/10 会則原案微修正, 11/11 設立総会開催.....正式発足

### 2. 設立総会

11月11日(土)14時から設立総会を開催した。準備委員会：松尾による設立経緯説明、会則の承認、第1期役員承認が行われた。この総会の議決により、日本AI音楽学会は正式に発足した。第1期役員は下記の通り。

#### 日本 AI 音楽学会 第1期役員

##### 会長

松尾 祐孝 (作曲家・指揮者・音楽プランナー / 洗足学園音楽大学教授)

##### 副会長

大谷 紀子 (AI 研究者 / 東京都市大学教授)

##### 理事

黒木 正郎 (建築家 / 東京建築士会副会長 / 株式会社日本設計執行役員フェロー)

白柳 龍一 (音楽プロデューサー / 株式会社アールレゾナンス代表)

宮木 朝子 (作曲家・電子音楽研究者 / 洗足学園音楽大学非常勤講師)

森 威功 (作曲家・電子音楽研究者 / 洗足学園音楽大学准教授)

##### 監事

小川 類 (作曲家・音楽プロデューサー)

前田 康徳 (作曲家・電子音楽研究者 / 洗足学園音楽大学教授)

### 3. 設立イベント～シンポジウム

11月11日(土)15時から設立イベントの核として [シンポジウム] を開催した。読売新聞記者を含む47名が参加聴講した。

#### 4. 設立イベント～AI体験コーナー

11月11日(土)12時～18時、12日(日)11～17時に、東京都市大学大谷紀子教授研究室の協力を得て、AI体験コーナーを開設した。本学文化祭(学園祭)【SENZOKU GAKUEN FESTIVAL 2017】のイベントとしても有効に機能して、両日にわたり多くの方々にAIを体験していただいた。(来場者数348名)

#### 5. 設立総会と設立イベントを終えて

学園本部と事務局長室の多大なる支援、東京都市大学大谷教授研究室の協力、学外関係者各位の助力を得られたことによって、設立総会と設立イベントを予定通り開催することができた。まだ生まれたばかりの小さな任意団体だが、AIに対する一般来場者の興味の強さ、音楽や芸術とAIが協同・協創できる可能性等を充分に感じることができた開催となった。音楽大学がこのように社会の最先端の潮流に関わっていく姿勢を示すことには少なからず意味と意義があるものと確信する。この設立イベントの細やかな成功を第一歩として、鋭意前進していきたい。

下表のように、“AI研究者・企業”“作曲家・クリエイター”“演奏家・パフォーマー”“ユーザー・聴衆(社会)”を柔らかに結びつけ、アイデアやニーズを共有しながら、AIと音楽やステージパフォーマンス等の協同・協創の発展に貢献していきたいと考えている。

#### 6. 今後の展望

音楽家やクリエイターとAI研究者、そして社会(一般大衆)を柔らかに結ぶ場として、活を展開していきたいと考えている。AIと音楽の協働・協創に関わる何らかの研究をしている若手研究者に発表の場や、様々な研究を進めている研究者やAIの可能性に興味を持っている音楽家(クリエイター・演奏家)の交流や情報交換の場を、提供し続けていきたい。また、それらの場を総合したイベントを開催して、一般大衆にもAIと音楽の関わりを広くアピールしていきたいとも考えている。

2018年度では、【日本AI音楽学会第1回フォーラム】(仮称)を11月10日～11日に洗足学園音楽大学の学園祭【SENZOKU GAKUEN FESTIVAL 2018】との同時開催することを計画している。その後は、フォーラムの定着と外部団体や企業との連携の始動を目指していく。そして、そこには音楽家の視点や社会・一般大衆の視点も存在する場でありたいと考えている。

#### 7. 著者プロフィール

##### 松尾 祐孝 (Masataka MATSUO)

藝大作曲科を経て1984年同大学院修士課程修了。日仏現代音楽作曲コンクール特別賞、別宮作曲賞、【ISCM 1992 ワルシャワ大会】国際審査入選、ACL音楽祭(2002、2011、2014)入選等、内外で受賞多数。NHK教育テレビ音楽番組司会者、ブザンソン国際作曲コンクール1998審査員、【ISCM世界音楽の日々2001横浜大会】実行委員長、東京フィル【新世紀への讃歌】プランナー、アメリカ【MUSIC FROM JAPAN 2007】やポルトガル【MUSICA VIVA 2010】等の招待作曲家、ウクライナ【DONBAS MODERN MUSIC ART 2013】等の招待指揮者を歴任。管弦楽曲からライブエレクトロニクスを伴う作品や邦楽器作品まで、多様な分野の作品を発表し続けている。2014年に開催した【松尾祐孝邦楽器作品個展】は大きな注目を集めた。現在、作曲家・指揮者・音楽プランナー・音楽創造教育プログラム指導者として活躍中。洗足学園音楽大学教授、日本現代音楽協会理事、(公財)日本音楽教育文化振興会理事、等。

##### 主な著書等

“音楽づくり”ワークショップを楽しむために / マザーアース刊 / 2007年(共著:共著者=佐藤昌弘 坪能克裕) 小学校学習指導要領解説-音楽編 / 文部科学省 / 2008年(金本正武、坪能由紀子、他との共同制作) 案ずるより参加するが“音楽づくりワークショップ”～音楽を通じて創造性とコミュニケーション能力を育む～ / 2010年(単著 / 日本応用心理学会第77回大会論文集に収録) だれにでもつくれる“楽しい作曲”教科書・ワークブック / 日本音楽教育文化振興刊 / 2014年

##### 楽譜・音源等の主要出版物

現代の日本音楽第19集～松尾祐孝(楽譜&CD) / 春秋社刊 / 2007年  
PHONO X ～打楽器独奏の為の狂詩曲<π>(楽譜) / マザーアース刊 / 2013年  
さらし五変化～尺八、三味線、箏、十七絃箏の為に～(楽譜) / マザーアース刊 / 2013年  
CD < BONJOURNOUVEAU > プロデュース・指揮・楽曲提供(産学協同プロジェクト企画・指導)



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示-非営利-改変禁止4.0国際ライセンスで提供されています。ライセンスの写しをご覧になるには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/> をご覧ください、Creative Commons, PO Box 1866, Mountain View, CA 94042, USA までお手紙をお送りください。